

「一帯一路」時代と日本の未来

片山杜秀

●一帯一路

2013年、習近平がカザフスタンとインドネシアで表明

一帯 = 「シルクロード経済ベルト」
中国 - 中央アジア - ヨーロッパ
→ 元 世界帝国

一路 = 「21世紀海上シルクロード」
中国 - 東南アジア - スリランカ - アラビア - アフリカ
→ 明 鄭和の大航海

そのほか、構想には北極海航路を含む。中継点として
釧路の名が挙がる

●歴史評価

ユーラシア大陸という陸路
これが機能していれば海は従

古代シルクロードの時代
元の世界帝国の時代
地中海貿易時代

陸は機能しなくなってゆく
オスマン帝国

陸を迂回する戦略
海洋国家の抬頭
スペイン
ポルトガル
オランダ
イギリス
そしてアメリカ

太平洋の「発見」

日本の鎖国が破られる

極東の「地の利」が失われ、世界で指折りのフリク
ショナルな場所に位置づけがかわる

* 19世紀初頭の日本の自画像
たとえば会沢正志斎「新論」

明の滅亡により儒教世界の安定的理想像の最
実現国は名実共に日本となる

極東の地の利を活かして西洋を寄せぬことで
理想状態は持続可能

太平洋に往来のないことが水戸学的世界観の
大前提

日本が日ののぼる国ということはいちばん東
日本の東から何ものがくるのなら
日本がいちばん東にならない

地球はまるいとはいえ、人文地理的極東は
存在する
それが日の国 = 皇国日本

この世界観の崩壊を意味したのが
アメリカを起動力とする日本の開国

ユーラシア大陸の極東 世界の果て そこから東
に意味なし

↓
米露中のはざまの国に

ユーラシアの陸路は機能しない時代が続く
オスマン帝国
ソヴィエト連邦
中華人民共和国
東西冷戦

海洋国家が漁夫の利を得つづける
イギリス
日本
アメリカ

しかし、冷戦の終わり
中露関係改善
ユーラシア大陸の陸路が復活すると
海洋国家の利点は失われてくる
陸がもしも安全なら
シベリアからアフリカまでは陸路と沿岸航海路だけで
充足する！

イギリスと日本の周縁化
アメリカのアメリカ大陸自足化
という流れはおそらくとめがたい

かつての「未来学」の構想したようにベーリング海峡
横断鉄道・自動車専用道路でユーラシアとアメリカを
結べば、話は少し変わってくるけれど

●日本の未来

かつて元の時代には専守防衛 鎖国的
明の時代には明の世界貿易体制に組み込まれる

日本はまだ冷戦！ 世界史からずれている
北朝鮮問題
米国相手の臨戦国家として存続する北朝鮮と
日米同盟を盾に存続する日本は
対称的な意味合いにおいて米国を自国の存立の理由
とする
アメリカが引く可能性に両国とも恐怖を感じている
相手にし続けてもらえるようにただいま全力をふり
しぼっている
その点でも2国は相似している

「冷戦の継続」によってずれている状態が無事補正さ
れて世界史（というよりもユーラシア大陸史）のペー
スに追いつくとすれば

冷戦ぬきで世界史がデザインされなおせば
日米同盟は米中同盟の代替物なので修正されるだろう

したがって日米か日中かという選択肢に日本が悩んで
も相手国に同等の重みがない

日本の経済規模は相変わらず世界有数だが、無資源国
なのでその安定的・発展的継続性は脆弱であり、自国
の丈を見違えてはまずい

戦後日米同盟は軍事的・政治的同盟としては「防共同
盟」
防ぐ「共」がなくなれば、継続の必然性は薄まる
とくに薄まっているはずが、経済と北朝鮮のせいで
続くのが当たり前といささか「錯覚」している点か
あるのではないか

日米は経済的パートナーとしてまことに深い関係を築

いてきたが、米国が太平洋をはさんでのパートナーと
して希求してきた「真の対象」は中国であろう
日本は補助に格下げされる可能性が高いと予想される
もちろん米国の「スーパー・パワー」も低下しつつあ
る

日本は「ユーラシア大陸新秩序」に組み込まれるかた
ちで生き延びる可能性を検討した方がよい

日米同盟にこだわって中国やロシアを警戒する軍事コ
ストはこの国にはまかなえないだろう

日英同盟が終わったときのように
多国間の均衡路線にシフトし
ロシア、中国、アメリカと等距離的にふるまい
たとえば釧路にロシア軍の駐留を、南日本に中国軍の
駐留を認めるようなことさえも
中長期的には考えてみた方が、今後の日本の生き残り
に資するという事はないか

まさか江戸時代に戻って鎖国というわけにも…

●アジアは「足」である？

古満洲語ではお金をアシという。
似た言葉はアルタイ語族系にみられ、それがアジアの
語源ではないか。

と、戦前の「擬似言語学」では言われたことがある。

つまり騎馬民族・遊牧民族の使うお金のやりとりにつ
いての言葉がアジアになり、それすなわちアジアが陸
路でつながれた巨大貿易圏であるということ

「一帯一路」はこの意味での「アジア」のひとつの完
成構想であり、阻害要因が低減してきたいま、「未完
のアジア」がついに完成ということはある